

CentreNET[®] AT-Mail Server

**Installation & Upgrade
Guide**

アライドテレシス株式会社

目次

0	はじめに	3
0.1	このマニュアルについて	3
0.2	表記について	3
1	概要	4
1.1	機能・特徴	4
1.2	インストールするために必要な知識・情報	4
	必要な情報一覧	5
1.3	必要なハードウェアとソフトウェア	6
	対応機種	6
	対応 OS	6
	コンピュータ資源	6
	ユーザごとのディスク容量の目安	7
1.4	AT-Mail Server に接続して動作するメールクライアント	7
2	インストール	8
2.1	インストール手順の概要	8
2.2	インストールしましょう	8
2.3	最新バージョンへのアップグレード	13
	AT-Mail Server のアンインストール	14
	アンインストール中止後の再稼働方法	16
3	AT-Mail Server の設定	17
3.1	メールサーバを設定しましょう	17
	ログファイル	19
	サーバログ	20
	操作ログ	20
	エラーログ	21
	「メールユーザ」を登録しましょう	22
	メールサーバを起動しましょう	26
3.2	インターネットに接続しましょう	27
3.3	メールクライアントを設定しましょう	30

0 はじめに

この度は CentreNET AT-Mail Server をお買い上げいただきましてありがとうございます。
CentreNET AT-Mail Server は、WindowsNT 3.51、4.0、Windows 2000 上で動作するインターネット・メールサーバです。

0.1 このマニュアルについて

この冊子は、製品の概要や、インストール手順、運用を始める前の基本的な設定について、またすでに AT-Mail Server をご利用のお客さまが、最新のバージョンへアップグレードするための手順を説明しています。

CD-ROM の中に Readme.txt ファイルがあります。このファイルの中にも大切な情報が含まれています。インストールする前に、必ずお読みください。

0.2 表記について

- Windows NT 3.51、4.0、Windows 2000 で共通なことがらに関しては、Windows NT、NT と表記します（例「NT ユーザ」）。
- バージョンにより異なる場合、Windows NT 3.51、Windows NT 4.0、Windows 2000 のように表記します。

1 概要

CentreNET AT-Mail Server は、WindowsNT 上で動作するインターネットメールサーバです。AT-Mail Server を使用することで、お使いのコンピュータで、インターネット上の他のメールサーバと電子メールの送受信ができるようになります。インターネットだけではなくイントラネットでもお使いいただけます。

1.1 機能・特徴

- 日本語による GUI で、メールサーバの細かな設定・操作が可能
- RFC 規格に準拠した SMTP、POP3、IMAP4 をサポート¹
- WindowsNT のユーザやグループをメールユーザとして利用可能
- WindowsNT のユーザでなくても、独自のメールユーザを利用可能
- メールユーザごとの自動返信機能や自動転送機能をサポート
- メールアドレス（宛先）ごとの別名（Alias）をサポート
- メールリングリスト（リストサーバ）をサポート
- 豊富な通信記録（ログ）ファイルの生成
- イベントビューアと連動し、メールサーバに関するイベントの通知
- パフォーマンスモニタと連動し、メールサーバの稼働状況をリアルタイムに監視
- WindowsNT マシンのブートと同時に自動的にサービスを開始
- 32 ビットマルチスレッド構造

1.2 インストールするために必要な知識・情報

- WindowsNT 3.51、4.0 または Windows 2000 の操作方法
- インストールするコンピュータのアドミニストレータ（administrator）アカウントを使ってのログイン方法
- メールサーバ、メールクライアント、DNS、インターネット、これらのおおまかなネットワーク接続形態



1. SMTP:Simple Message Transfer Protocol(RFC821)、POP3:Post Office Protocol(RFC1939)、IMAP:Internet Message Access Protocol (RFC2060、RFC2195)

必要な情報一覧

表 1.2.1 必要な情報一覧

項目	お客様の環境
インストールするコンピュータの種類	
インストールするコンピュータの TCP/IP 情報 デフォルトゲートウェイ コンピュータの名前 コンピュータが接続される TCP/IP アドレス TCP/IP ネットワークでのサブネットマスク ネットワークでのドメイン名 DNS の IP アドレス	_____ _____ _____ _____ _____
シリアル番号 ^a 認証キー	_____ _____
管理者名	
所属組織名	
メールサーバのインストール先のディレクトリ (フォルダ)	_____ _____ (デフォルトは C:¥Program Files¥Allied Telesis¥MAILSERVICE ^b)
メールユーザの受信メール用メールボックスの ディレクトリ	_____ (デフォルトは C:¥MAILBOX)
メールサーバの作業用フォルダ	_____ (デフォルトは C:¥winnt¥system32¥AlliedTelesis¥Mail)
メールサーバのログ記録用ファイルの格納先	_____ (デフォルトは C:¥winnt¥system32¥AlliedTelesis¥Mail¥log)
メールサーバの管理者のメールアドレス	_____ (デフォルトは administrator)
全メールユーザ名	

a. これらは CentreNET AT-Mail Server の製品パッケージに同梱されている「シリアル番号 / 認証キー」シールに記載されている 12 桁の番号です。

b. C: はブートドライブであり、コンピュータの機種によって異なります。

1.3 必要なハードウェアとソフトウェア

対応機種

- OADG 準拠 PC-AT 互換機 (DOS/V)
- NEC PC-98 シリーズ
- NEC PC-98NX シリーズ

対応 OS

- 日本語 Microsoft WindowsNT Workstation Version 3.51 および 4.0
- 日本語 Microsoft WindowsNT Server Version 3.51 および 4.0
- 日本語 Microsoft Windows 2000 Professional、Server、Advanced Server

それぞれの OS に対応した、最新のサービスパックをインストールしてください。2000 年 8 月現在における最新は、下記の通りです。

- WindowsNT 3.5.1 Service Pack 5
- WindowsNT 4.0 Service Pack 6a
- Windows 2000 Service Pack 1

最新情報は、下記をご覧ください。

<http://www.microsoft.com/japan/>

コンピュータ資源

- CPU i486 100MHz 以上 (推奨 Pentium 166MHz 以上)
- メモリ 32MB 以上 (推奨 64MB 以上)
- インストールに必要なディスク容量 10MB 以上
- CD-ROM ドライブ

ユーザごとのディスク容量の目安

メールサーバの運用は、ユーザごとに2～5MB以上のディスク容量が必要です。
例（2MBのディスクに格納できるメールの目安）¹

- 弊社 AT-TCP/32 シリーズの ATMail
標準エディタ（メモ帳）で文章を作成した場合、1通あたり100行とすると約200通。
- 弊社承認メール、承認メール Jr.
テキスト形式のみで文章を作成した場合、1通あたり100行とすると約200通。
- Microsoft Word
文字だけの文章を作成した場合、1通あたり3ページとすると約50通。
図形が含まれる場合、1通あたり3ページとすると約25通。
- Microsoft Excel
文字だけの表を作成した場合、1通あたり3ページとすると約30通。
グラフや図形が含まれる場合、1通あたり3ページとすると約15通。

1.4 AT-Mail Server に接続して動作するメールクライアント

AT-Mail Server と接続して動作するメールクライアントの一部をご紹介します。

- 弊社 ATMail（AT-TCP/32 Professional プログラムに含まれるメール）
- 弊社承認メール
- Eudora Light v1.4.4 for Windows
- Eudora Pro v2.2 for Windows95
- Netscape Navigator（Ver. 3.01）Mail
- Netscape Navigator Ver.4.5
- Microsoft Internet Mail v3.0 for Windows95 & NT
- Microsoft Internet Express Ver.5.0



1. ここで説明されている数字は目安です。実際のメールの内容や使用するアプリケーションによって異なる場合があります。

2 インストール

2.1 インストール手順の概要

AT-Mail Server をインストールし、メールサーバとして運用を開始するまでの作業の流れは以下の通りです。

AT-Mail Server をインストールする前提として、インストールするコンピュータにネットワークカードが実装されており、TCP/IP ネットワークに接続している必要があります。

- 1 情報の収集
必要な情報は、「1.2 インストールするために必要な知識・情報」(p.4)の一覧表をご覧ください。
- 2 AT-Mail Server のインストール
- 3 ユーザの登録やログの記録の有無などのメールサーバの設定
- 4 メールクライアント側の設定の確認
- 5 メールクライアントとメールサーバの接続確認
- 6 運用

2.2 インストールしましょう

ここでは以下を仮定して AT-Mail Server のインストールを行います。

- シリアル番号「1234-5678-9012」
 - 認証番号「3456-7890-1234」
 - AT-Mail Server をインストールするコンピュータのホスト名と IP アドレス「pinokio」「150.87.28.118」
- 1 ユーザ「administrator」で WindowsNT にログオンし、CentreNET AT-Mail Server の CD-ROM を CD ドライブに入れます。
 - 2 CD-ROM の ¥DISK フォルダの「SETUP.EXE」をダブルクリックします。
またはスタートボタンから「ファイル名を指定して実行」を選択し、ファイル名を入力するフィールドに「D:¥DISK¥SETUP.EXE (D: は CD-ROM ドライブのドライブ名)と入力します。WindowsNT 3.51 の場合はプログラムマネージャのアイコンメニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、同様に「D:¥DISK¥SETUP.EXE」と入力します。

- 3 インストーラが起動し、「Welcome to CentreNET AT-Mail Server Setup」ダイアログが表示されます。ダイアログの下の「次へ」ボタンをクリックします。

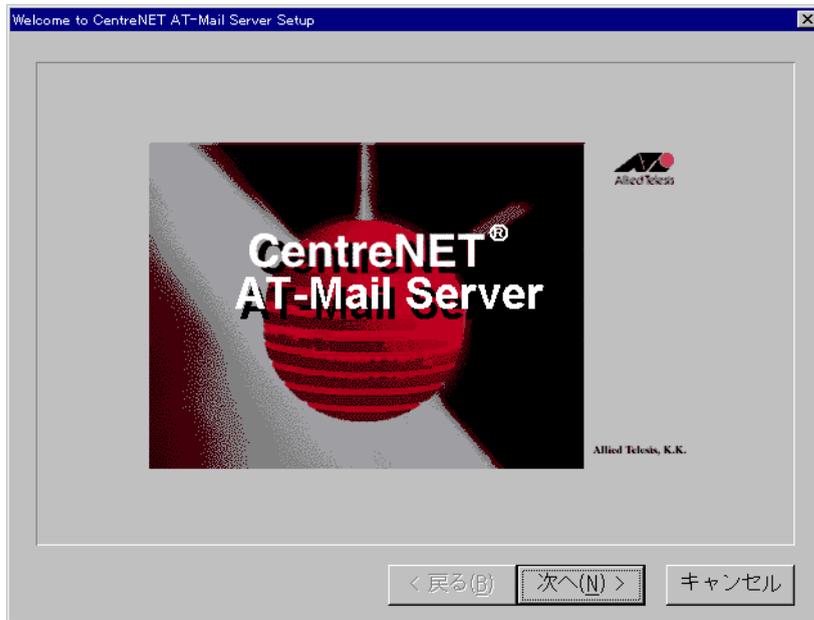


図 2.2.1

- 4 「ソフトウェア使用権許諾契約書」画面が表示されます。文章をよくお読みになって、同意する場合は「はい」ボタンを、同意しない場合は「いいえ」ボタンをクリックします。同意しない場合は、直ちにセットアップが終了し、インストールすることはできません。

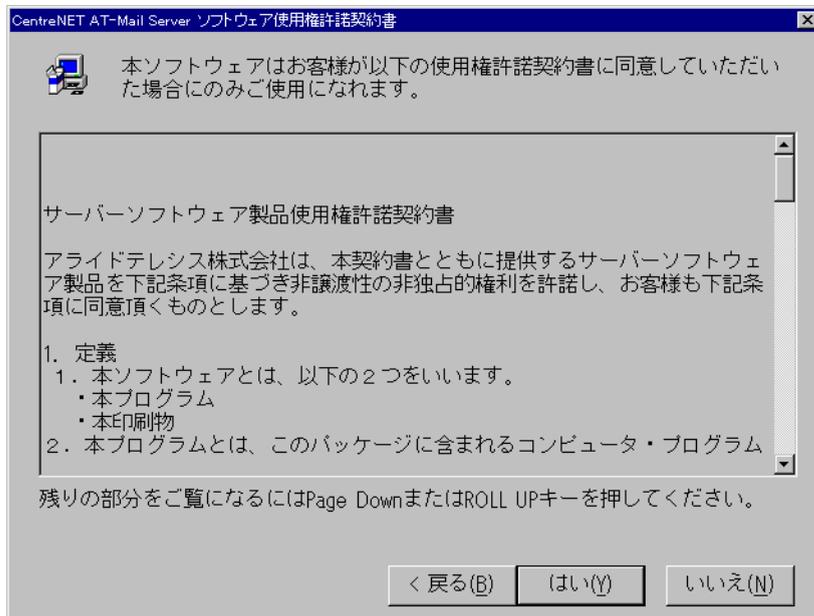


図 2.2.2

- 5 「情報の入力」ダイアログが表示されます。ここでは、名前、会社名、シリアル番号、認証キーの入力を行います。シリアル番号、認証キーは、製品パッケージに同梱されている「シリアル番号/認証キーシール」に記載されている番号 12 桁を入力します。間違えないように入力してください。入力後はダイアログの下の「次へ」ボタンをクリックします。

情報の入力

名前, 会社名およびCenterNet AT-Mail Serverのシリアル番号, 認証キーを入力して下さい。

名前

会社名

シリアル番号

認証キー

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

図 2.2.3

- 6 「情報の確認」ダイアログが表示されます。ここでは前ダイアログ 5. で設定した項目が表示されます。シリアル番号と認証キーが正しく入力されているか確認してください。入力した設定が正しければ「はい」ボタンをクリックします。間違っている場合は「いいえ」ボタンをクリックし、もう一度「情報の入力」画面 5. に戻ります。

情報の入力

次の登録情報があります。

名前

会社名

シリアル番号

認証キー

この情報は正しいですか？

(はい(Y)) (いいえ(N))

図 2.2.4

- 7 「インストール先の選択」ダイアログが表示されます。ここでは AT-Mail Server をインストールするディレクトリを選択します。デフォルトは「C:¥Program Files¥Allied Telesis¥MAIL SERVICE」です。デフォルト以外のディレクトリにインストールする場合は「参照」ボタンをクリックして別のディレクトリを指定できますが、通常はデフォルトのディレクトリを使用してください。「次へ」ボタンをクリックします。



図 2.2.5

- 8 「プログラムフォルダーの選択」ダイアログが表示されます。ここではプログラムフォルダーの設定をします。デフォルトは「CentreNET AT-Mail Server」です。通常はデフォルトの設定を使用します。変更したい場合は、「プログラムフォルダー」フィールドに設定をしたいフォルダ名を入力してください。入力できるのは半角英数字だけです。全角文字（漢字）を入力しないでください。「次へ」ボタンをクリックします。



図 2.2.6

9 AT-Mail Serverに必要なファイルのコピーを始めます。

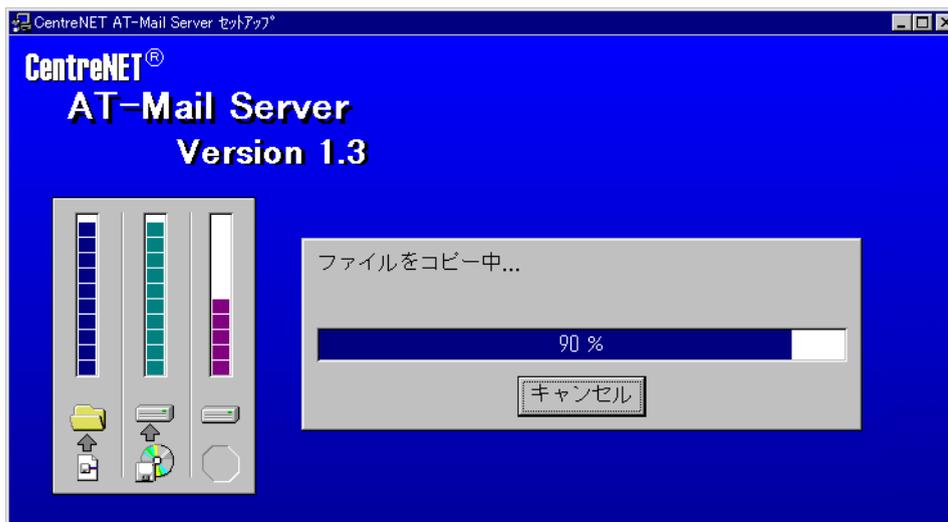


図 2.2.7

10 CentreNET AT-Mail Server のプログラムグループが作成され、各プログラムのアイコンが表示されます。



図 2.2.8

- 11 ファイルのコピーが終了し、以下のメッセージが表示されたら、「終了」ボタンをクリックしてください。引き続き、AT-Mail Server の設定に進みます（「3.1 メールサーバを設定しましょう」(p.17) の手順3）。

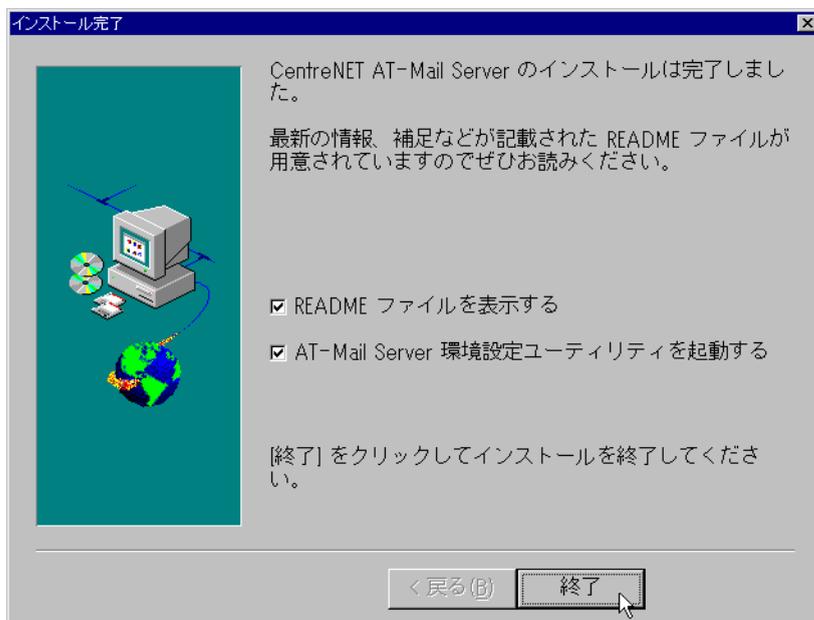


図 2.2.9

2.3 最新バージョンへのアップグレード

すでに AT-Mail Server をご利用のお客様が、最新バージョンへのアップグレードを行う場合や、何らかの理由で再インストールを行う場合、次の手順で行います。

- 1 インストール済みの AT-Mail Server をアンインストールします。
既存の設定情報などをアップグレード後も使用するためには、アンインストール時の途中で表示される「確認」ダイアログボックスのメッセージにご注意ください。
- 2 最新バージョンの AT-Mail Server の SETUP.EXE アイコンをダブルクリックし、画面の指示に従ってインストールを完了します。
シリアル番号と認証キーは、インストールされていた AT-Mail Server のものが自動的に引き継がれます。

AT-Mail Server のアンインストール

注 万 one の場合に備え、システム全体のバックアップをとることを強くお勧めします。

- 1 Windows NT 4.0、Windows 2000 の場合、「スタート」 「プログラム」 「CentreNET AT-Mail Server」の順に選択し、「アンインストーラ」をクリックします。
Windows NT 3.51 の場合、「プログラムマネージャ」 「メイン」 「コントロールパネル」 「CentreNET AT-Mail Server」の順に開き、「アンインストーラ」をダブルクリックします。

注 Windows NT のコントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」では正しくアンインストールが行われません。「アプリケーションの追加と削除」でアンインストールを行わないでください。

- 2 以下の「確認」ダイアログボックスが表示されます。「はい」ボタンをクリックしてください。「メールサーバをシステムから削除しています」という画面が表示されます。「いいえ」ボタンをクリックすると、アンインストール作業を中止します。

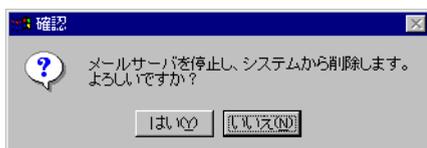


図 2.3.1

- 3 以下の「確認」ダイアログボックスが表示されます。「いいえ」ボタンをクリックしてください。「はい」ボタンをクリックすると、サーバに残っている受信メールを削除してしまいます。

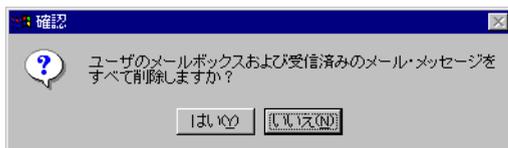


図 2.3.2

- 4 以下の「確認」ダイアログボックスが表示されます。「いいえ」ボタンをクリックしてください。「はい」ボタンをクリックすると、メールユーザの設定情報などがすべて削除されます。

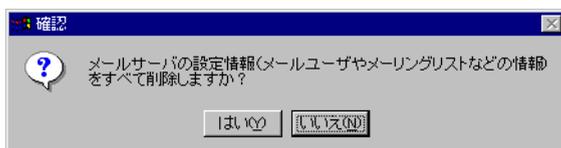


図 2.3.3

- 5 以下の「ファイル削除の確認」ダイアログボックスが表示されます。アンインストールを実行する場合は、「はい」ボタンをクリックします。



図 2.3.4

ここで「いいえ」ボタンをクリックすると、アンインストールを中止しますが、メールサーバが停止したままの状態となります。

再度メールサーバを稼働させるには、DOS プロンプトからコマンドを実行することが必要です。詳細は、本書「アンインストール中止後の再稼働方法」をご覧ください。

6 アンインストールを開始します。しばらくすると、以下の画面が表示されます。



図 2.3.5

7 「OK」ボタンをクリックします。これでアンインストールが完了です。「2.2 インストールしましょう」(p.8)にお進みください。¹



1. 再インストールでは「シリアル番号」「認証キー」の入力は不要です（インストールされていたものが自動的に引き継がれます）。

アンインストール中止後の再稼働方法

「AT-Mail Server のアンインストール」(p.14) の手順5 で「いいえ」ボタンを選択すると、アンインストールは中止されますが、メールサーバはシステムに認識されていない動作不明状態となります。

アンインストールの中断をした AT-Mail Server をもとの状態に戻し、再度使用するには、以下の手順で再稼働してください。

- 1 Windows NT 4.0、Windows 2000 の場合、「スタート」 「プログラム」 「コマンドプロンプト」の順に選択し、コマンドプロンプト画面を開きます。
Windows NT 3.51 の場合、「プログラムマネージャ」 「メイン」 「コマンドプロンプト」の順に選択しコマンドプロンプト画面を開きます。

- 2 以下の太字部分を実行ディレクトリから入力します（「↓」マークは、「Return」キーを押します）

```
C:> POP3S - install ↓  
C:> SMTPDS - install ↓  
C:> SMTPRS - install ↓  
C:> IMAP4S - install ↓  
C:> POP3S - start ↓  
C:> SMTPDS - start ↓  
C:> SMTPRS - start ↓  
C:> IMAP4S - start ↓
```

- 3 これで、アンインストールを中止した AT-Mail Server の再稼働は完了です。
アンインストールを再度行う場合は、「AT-Mail Server のアンインストール」(p.14) の最初から実行してください。

3 AT-Mail Server の設定

ローカルネットワーク（LAN）でメールサーバとして使用するためには、最低限次の 2 つの設定が必要です。

- ログの記録の有無
- メールユーザの設定

また、AT-Mail Server を設定する前に、次のものが正常に動作していることを確認してください。正常に動作していない場合は、正常に動作するように調整してください。

- TCP/IP ネットワークが正常に動作していること
- DNS が正常に動作していること

3.1 メールサーバを設定しましょう

- 1 「スタート」ボタン 「プログラム(P)」 「CentreNET AT-Mail Server」 「AT-Mail Server Config」と選択して行き、「AT-Mail Server Config」を起動してください。
また、「コントロールパネル」の「AT-Mail Server」をダブルクリックすると、手順 2 を飛ばして手順 3 に進むことができます。

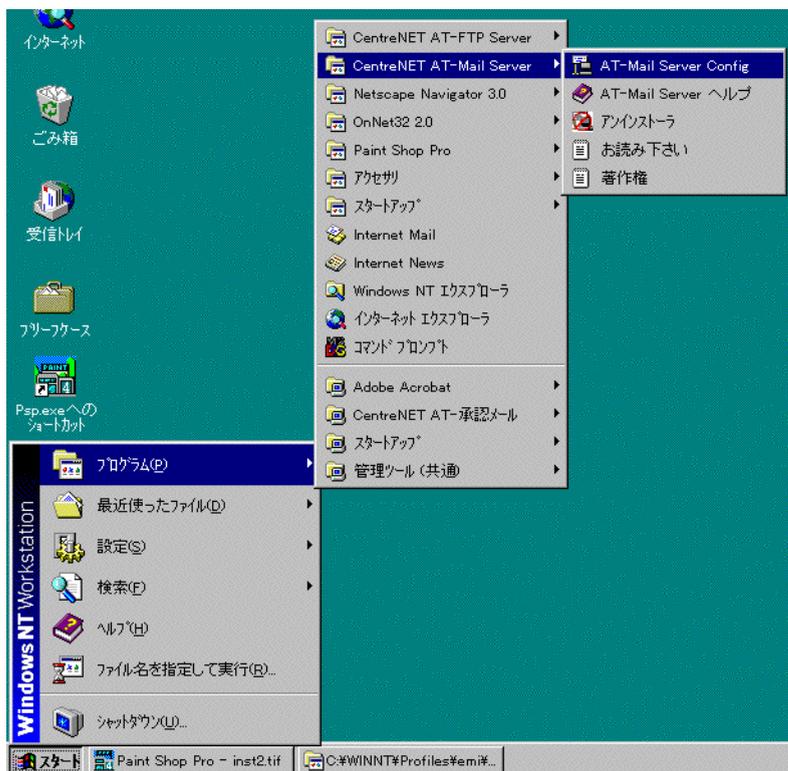


図 3.1.1

- 2 Microsoft ネットワークに接続されている WindowsNT や Windows 95/98 コンピュータの一覧が表示されます。先程 AT-Mail Server をインストールした WindowsNT のアイコン（ここでは pinokio）をダブルクリックします。



図 3.1.2

- 3 AT-Mail Server の環境設定のダイアログが表示されます。最初に表示されるフォルダページでは、「必要な情報一覧表 (p.4)」に挙げた各ディレクトリと管理者のデフォルト値が設定されています。変更する必要がない場合は次のステップへ進みます。



図 3.1.3

ログファイル

- 4 「ログファイル」タブをクリックして、ページを表示させます。ここでは AT-Mail Server のさまざまなイベントをログファイルに記録するように設定します。



図 3.1.4

- 5 採取できるログには 3 種類あります。「ログの種類」フィールドの右端の矢印をクリックすると、各ログが表示されます。それぞれログを選択して、各ログごとの設定ができます。



図 3.1.5

サーバログ

- 6 ログの種類ボックスの中から「サーバログ」を選択します。以下の3つのログオプションがあります。次の画面になるように全てのオプションをチェックしてください。



図 3.1.6

操作ログ

- 7 ログの種類ボックスの中から「操作ログ」を選択します。以下の7つのログオプションがあります。

この画面のオプションは通常の運用ではチェックしません。

このオプションは、なにか問題が起こったときに選択することをお勧めします。通常の運用時にチェックしてしまうと、採取するデータが膨大な量になってしまい、パフォーマンスが低下する場合があります。



図 3.1.7

エラーログ

- 8 ログの種類ボックスの中から「エラーログ」を選択します。以下の5つのログオプションがあります。下の画面にあるように各オプションをチェックしてください。

注 「DNSでの参照不可」は通常の運用時にチェックしてしまうと、採取するデータが膨大な量になってしまい、パフォーマンスが低下する場合があります。問題があるときだけチェックしてください。



図 3.1.8

- 9 ログファイルに関する全ての設定を行った後は「適用」ボタンをクリックします。サービスが稼働中でも設定が反映されます。

「メールユーザ」を登録しましょう

- 10 「メールユーザ」ページを表示させます。ここでは各メールユーザの作成および設定を行います。



図 3.1.9

AT-Mail Server におけるメールユーザには、次の 2 種類があります。



NT メールユーザ

WindowsNT の「管理ツール」-「(ドメイン) ユーザーマネージャ」によって登録されており(すなわち WindowsNT にアカウントを持っている) AT-Mail Server を使用するユーザ



一般メールユーザ

WindowsNT の「管理ツール」-「(ドメイン) ユーザーマネージャ」によって登録されていないが(すなわち WindowsNT にアカウントを持たない)、AT-Mail Server を使用するユーザ

- 11 NT メールユーザを設定する場合は  ボタン(左側)をクリックします。(手順 12、手順 13)
一般メールユーザを設定する場合は  ボタン(右側)をクリックします。(手順 14)
- 12  ボタン(NT ユーザ)をクリックした場合は NT ドメインを選択するダイアログが表示されます。NT ドメインを選択して「選択」ボタンをクリックします。



図 3.1.10

「NT ユーザの追加」ダイアログが表示されます。「NT ユーザを選択する」一覧から設定をするユーザを選択し、「追加」ボタンをクリックします。ここではユーザ IUSR_PINOKIO を選択します。コントロールキー（CTRL）またはシフトキー（SHIFT）を押しながらクリックすることで、複数の NT ユーザを同時に選択することもできます。

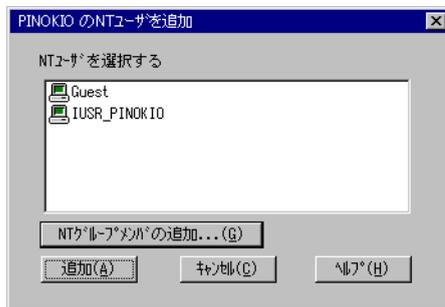


図 3.1.11

- 13 「メールユーザ」ページに戻り、選択したユーザが表示されます。ここで「適用」ボタンをクリックし、登録します。



図 3.1.12

- 14  ボタン（一般メールユーザ）をクリックした場合は「メールユーザ」ページに以下のように表示されます。「NEW USER」の箇所が反転しているため、その箇所に一般メールユーザとして登録するユーザ名を入力します。「NT メールユーザ」と「一般メールユーザ」では、アイコンが異なる点にご注意ください。



図 3.1.13

- 15 登録したユーザに関する情報を設定します。ここでは先程登録した NT メールユーザ「iusr_pinokio」について設定すると仮定します。「iusr_pinokio」をダブルクリックします。



図 3.1.14

- 16 「メールユーザ」ダイアログが表示されます。



図 3.1.15

ユーザ名

メールユーザ名です。ここでは変更できません。

フルネーム

ユーザのフルネームを入力します。「NT メールユーザ」の場合、WindowsNT に登録されているフルネームがデフォルトとして表示されます。「一般メールユーザ」の場合、空白となっています。

パスワード

「NT メールユーザ」の場合、何も入力せずに空白にしておいてください。空白にしておくと WindowsNT に登録されているパスワードが AT-Mail Server のパスワードとして使用されます。文字列を入力すると、AT-Mail Server はその文字列をパスワードとして使用します。例えば、この欄に WindowsNT と同じパスワードを入力した場合、WindowsNT 側のパスワードを変更しても、この欄に入力されてしまったパスワードはそのままとまります。

「一般メールユーザ」の場合、メールユーザのパスワードを入力してください。

パスワードの確認

「NT メールユーザ」の場合、何も入力しません。

「一般メールユーザ」の場合、確認のために「パスワード」で入力した文字列をもう一度入力します。

その他

その他の情報も設定できるようになっていますが、通常これらはデフォルトのまま使いますので、ここでは説明しません。詳細は User Manual をご覧ください。

メールサーバを起動しましょう

- 17 さあ、いよいよメールサーバを起動します。「サーバの起動・停止」タブをクリックします。AT-Mail Server は 4 つのサービスで構成されており、「サーバの起動・停止」は一時的に各サービスの起動または停止をコントロールするためのパネルです。「サーバ全体」の「起動する」ボタンをクリックすると、4 つのサービス全てが起動します。それぞれのサーバのボタンの表示が「停止する」に変わり、電球が黄色くなり点灯したよう表示されます。



図 3.1.16



図 3.1.17

電球はそれぞれのサービス（サーバ）ごとの状態を表示しており、サービスが起動していると電球が点灯したよう表示され、停止すると消灯したように表示されます。各サーバの右のボタンをクリックすることにより、個々にサービスを起動したり、停止したりできます。

サービスが稼働中の場合  または 

サービスを停止した場合 

AT-Mail Server のデフォルトの状態では、AT-Mail Server の4つのサービスの全てが WindowsNT の起動時に自動的に起動するように設定されています。例えば「WindowsNT の起動の時点で IMAP4 サーバは起動させずに、他の3つのサーバだけを起動させる」ようにしたい場合は、「コントロールパネル」の「サービス」アイコンをダブルクリックし、「サービス」パネルの「AT-Mail Server IMAP4 Server」の「スタートアップ」を「無効」に変更します。

ここで説明した「サーバの起動・停止」タブは、一時的に起動または停止をコントロールするためのものであり、恒久的な起動や停止を行うことはできない点にご注意ください。

3.2 インターネットに接続しましょう

LAN 上のコンピューターから外部（インターネット）とメールの送受信をするためには、ルーティングページの設定が必要です。必ず、LAN 上でメールの送受信ができることを確認してからルーティングの設定をしてください。ここでは、以下の図に示されている環境を例に説明します。

- 1 この例の場合は、以下を仮定します。
ドメイン名「*」
ルート先「mail.isp.co.jp」

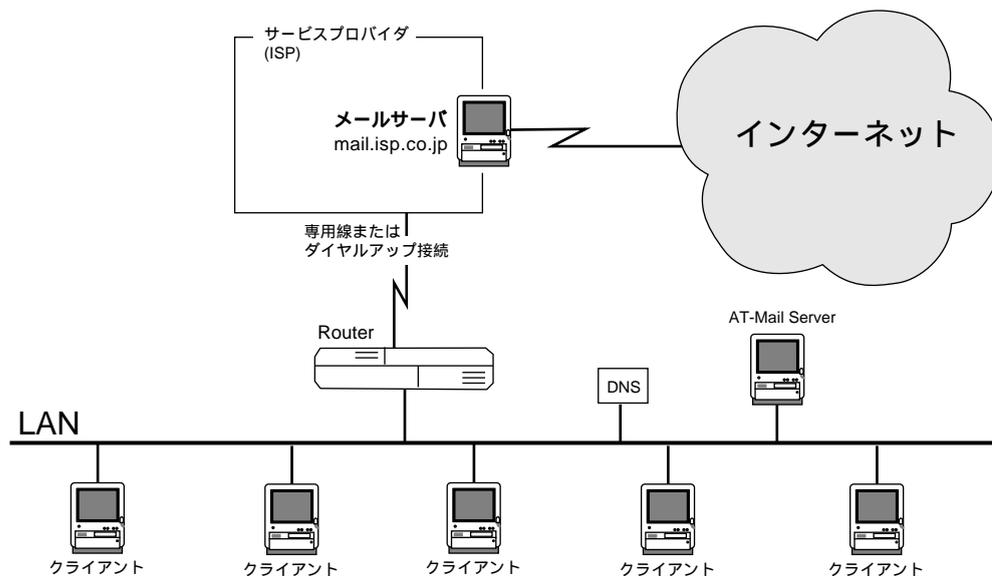


図 3.2.1

- 2 「ルーティング」タブをクリックしてください。ドメイン名、ルート先を入力し、「常に」ラジオボタンをクリックして、「追加・更新」ボタンをクリックします（設定内容が一番上の欄に表示されます）。実際には、お使いのネットワーク環境によって設定内容が異なります。

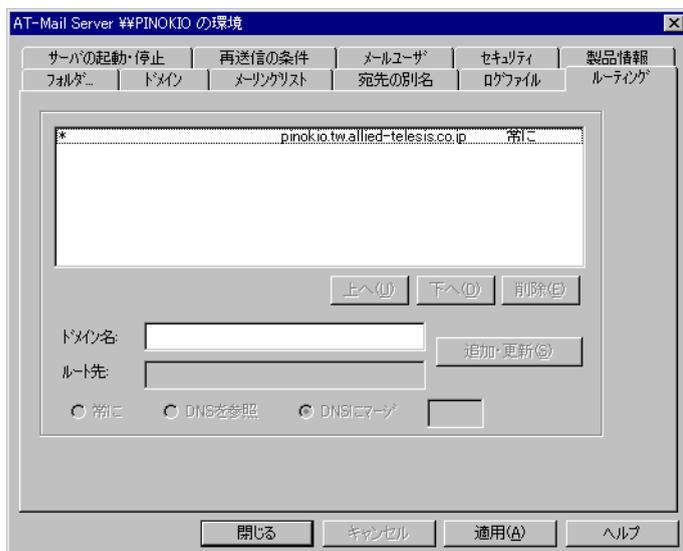


図 3.2.2

- 3 セキュリティの設定を行います。同一メールを多数受信したり、送信した覚えのない相手からの不配達通知を受信した場合は、ご使用のマシンが Open Relay¹ とみなされ、スパムメールの被害に遭っている可能性があります。この問題を回避するためには、AT-Mail Server アプレットの「セキュリティ」ページで、以下項目をチェックしてください。

[✓] 通信相手のホスト名を DNS で確認する

[✓] 通信相手のホスト名を RBL (リアルタイム・ブラックホール・リスト) で確認する

[✓] 受信者がローカルユーザでなければ拒否する

[✓] 発信者のアドレスが正しいことを確認する

この4つのチェックを入れてメールの送受信ができなくなった場合、DNS サーバの設定を確認してください。²

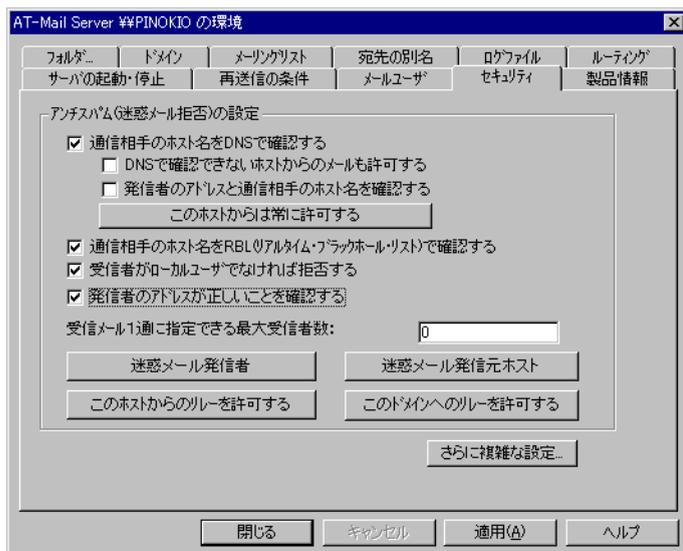


図 3.2.3



1. オープンリレー、第三者不正中継
2. DNS サーバの設定は、WindowsNT 4.0 の場合、「コントロールパネル」「ネットワーク」「プロトコル」「TCP/IP プロトコル」「DNS」にあります。正しいDNSサーバを指定しているか、DNSサーバは正しく稼働しているかなどを確認してください。

3.3 メールクライアントを設定しましょう

お使いのメールクライアントに以下の設定を施してください。メールクライアントの詳細は、お使いのメールクライアントのマニュアルをご覧ください。

1 POP サーバや IMAP サーバ、SMTP サーバなどの設定

AT-Mail Server をインストールしたコンピュータ名（ホスト名）とドメイン名、または IP アドレスを入力してください。

例：pinokio、192.87.10.102

2 ログイン名

メールサーバに登録しているメールユーザ名を入力します。3.1-9.「メールユーザ」ページで設定した名前のことです。

例：emi、andy

3 メールアドレス

メールアドレスはホスト名も表記してください。

例：emi@mailsrv.allied-telesis.co.jp

4 送受信漢字コードの設定

JIS コードを設定してください。

ご注意

- (1) 本マニュアルは、アライドテレシス株式会社が作成したもので、全ての権利をアライドテレシス株式会社が保有しています。アライドテレシス株式会社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- (2) アライドテレシス株式会社は、予告なく本マニュアルの一部または全体を修正、変更することがありますのでご了承ください。
- (3) アライドテレシス株式会社は、改良のため製品の仕様を予告なく変更、改良することがありますのでご了承ください。
- (4) 本製品の内容またはその使用に関して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©1997, 2000 アライドテレシス株式会社

マニュアルバージョン

1997年 7月 5日	Rev.A (ver1.0pl0)	初版 (通常商品)
1997年 11月 12日	Rev.B	第2版
2000年 3月 10日	Rev.C	第3版
2000年 9月 1日	Rev.D	第4版 (Windows 2000 対応、 Ver.1.3pl0)

商標について

CentreNET は、アライドテレシス株式会社の登録商標です。

Windows NT、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

この文書に掲載されているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。